



3つの花を咲かせよう。

横代小だより

北九州市立横代小学校

校長 原 譲治

＜教育目標＞ あかるく 正しく たくましく 未来にはばたけ

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

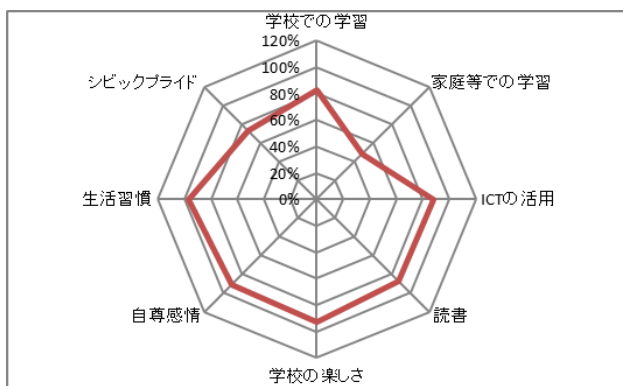
文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	全体的には全国平均を下回っていたが、「選択式」の問題の正答率は高かった。記述式の問題の正答率が低く、自分の考えが伝わるように書き表すことに課題がある。	下回っている
算数	選択式の問題や短答式の問題形式の時は、比較的解答できるが、答えの理由を記述する問題に課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自尊感情や生活習慣などは、前年度よりも肯定的な回答の割合が増えている。「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童の割合は7割程度であった。自己肯定感や自己有用感が高まるように、児童の成長を認め、適宜称賛するとともに、互いのよさを伝え合えるような場を設定していく必要がある。 ○ 学校の授業以外の学習時間・家で自分で計画を立てて勉強している児童の割合が5割程度であった。「平日や土曜日・日曜日など学校が休みの日に1日1時間以上勉強している」児童の割合は2割程度であった。全校で自主学習の時間の目安(10分×学年)を示したり、個に応じた自主学習の量・内容・出し方を工夫したりすることで、自主学習の習慣を定着していく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・基礎的・基本的な内容の定着を図るために、ドリルアプリを活用し、補充学習に取り組むようにする。
- ・学習のまとめや振り返りの場面に、「書く活動」を位置付け、自分の考えを表現することができるようにする。
- ・効果的なOJTの推進を図り、教師の授業力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学校だよりや学年・学級通信で、家庭学習の重要性について、児童だけでなく保護者にも啓発していく。
- ・宿題の量や内容を発達段階に応じて用意することで、意欲をもって家庭学習に取り組めるようにする。
- ・引き続き低学年は、宿題プリントに保護者のサイン欄を設けることで、家庭との連携を図れるようにする。